

## 初期臨床研修プログラム：消化器内科

コース責任者：佐藤知巳

指導医：佐藤知巳、合志 聡、鈴木庸弘 上級医：禿晃仁、佐藤毅昂

コースの位置づけ：必修科として1～2ヶ月、選択科として1ヶ月から

### I 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

一般的な消化器疾患の病態を理解し、問診、理学的所見、各種検査に基づいて診断し、治療計画を立てることができる。また、患者様、ご家族様と良好な関係を築き、患者満足度の高い医療を提供できるように目指す。

### II 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 外来および入院患者様 を通じて、一般的な消化器疾患の病態を理解する。
- 2) 消化器関連の一般的な検査、治療手技（腹腔穿刺、経鼻胃管挿入など）を理解し、実施できるようにする。救急患者の初期治療計画を立て、適切な点滴、栄養管理ができるようにする。
- 3) 消化器関連検査（内視鏡、超音波、CT、MRI、透視）の適応と結果を理解し、指導医の下で読影し、また実施できるように努力する。
- 4) 患者様およびご家族様と良好な人間関係を築けるように努力する。
- 5) 看護師、MSW、薬剤師、栄養士、リハビリなどの方々と協力し、チーム医療を学ぶ。
- 6) 診療録に適切に記載できる。

### III 学習方略 (LS: Learning Strategy)

必須事項：腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振、排便異常、胸焼け、黄疸、嚥下困難を有する患者様や、消化器がん患者様に対する内視鏡治療、化学療法、放射線療法、緩和医療の経験を積む。

病棟診療：指導医と共に診療に携わり、疾患の病態を把握する。検査および治療計画の立案を共に立て、検査の指示、処方・点滴の指示ができるようにする。指導医の病状説明を見学し、自らも説明ができるように努力する。

業務：① 各種検査・治療手技について適応を理解し、指導医の介助をする。

- ② 上部消化管内視鏡検査については、指導医の下でモデルによる練習で基本操作を取得した上で、主に入院患者様を対象にスクリーニング検査を経験する。
- ③ 早期消化管がんに対する内視鏡治療（ESD など）や内視鏡的胆石徐去術、胆管ドレナージ術、胆管ステント留置術について適応を理解し、その方法と術後管理について学ぶ。
- ④ 進行性消化器がん患者様に対する化学療法、放射線療法の適応と内容について理解し、治療中の管理について学ぶ。また、末期がん患者様に対する緩和医療について学ぶ。
- ⑤ 高齢者医療について学び、内視鏡的胃瘻造設術（PEG）の適応と管理を理解する。
- ⑥ 週一回の消化器内科カンファレンスで、全入院患者様の疾患の理解と治療計画を学ぶ。

### IV 学習評価 (Ev : Evaluation)

知識：カンファレンスでの質疑応答、退院サマリーで評価

技能：診察方法、検査の技術等に関して観察記録で評価；指導医

態度：患者様や病院スタッフとのコミュニケーションを観察記録で評価；指導医

\*当科でのレポート作成が適している項目：

食道・胃・十二指腸・小腸・大腸疾患、肝胆膵疾患、PEG 適応疾患、栄養療法

#### 消化器内科研修における週間予定

曜日	午前	午後
月	腹部エコー、上部消化管内視鏡、救急外来	大腸内視鏡
火	腹部エコー、上部消化管内視鏡	救急外来、病棟業務
水	腹部エコー、上部消化管内視鏡、救急外来	内視鏡的粘膜下層切開剥離術
木	腹部エコー、上部消化管内視鏡、救急外来	大腸内視鏡
金	腹部エコー、上部消化管内視鏡	胃瘻交換、救急外来、検討会